

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒の卒業後をみすえ、「チャレンジ・つながる・自立」を合言葉に、生徒の豊かな個性を活かしつつ、すべての教育活動を生徒の自立への力の育成と支援者の拡大につなぐ学校づくりをめざす。

併せて、生徒一人ひとりが、安全に、また、安心して学ぶことができる学校づくり、地域の人々や関係機関等から信頼される学校づくりをめざす。

## 2 中期的目標

1 今後のインクルーシブ教育を見据えて、生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程及び授業内容等の充実を図る。

(1) 生徒の多様性と社会状況の変化をふまえ、それぞれのコースの教育課程について検証し、必要な改善を行う。

教育課程の更なる充実に向けて、基礎学習・作業学習の見直しなど必要な改善を行う。併せて、研究授業等の充実などを通じて、教職員が主体的に授業改善に取り組むための環境を整える。

\*研究授業、公開授業等を活性化し、授業内容の改善及び充実を図る

(2) 職場実習・校内実習の機会拡大を通じて、生徒のチャレンジ意欲を育む。

コース間の相互連携を強化し、職場実習・校内実習等の機会を拡大し、生徒のチャレンジ意欲を高めるとともに、支援者の拡大につなげる。

生徒の成長の指標となるキャリアプランニングマトリックス表を作成し、すべての教育活動を通じて生徒の自立にむけた取組みを進める。

\*生徒の状況をふまえつつ、校内、校外実習の多様化及び体験機会を拡大する。

\*府立大学等との連携の更なる充実など、社会自立コース等における校外の実習の機会を拡大する。

(3) 個別の教育支援計画、指導計画等の充実

生徒の多様性をふまえ、長期目標、短期目標設定を明確にするとともに、保護者参画の更なる充実を図る。

\*一貫した支援のツールとなるよう中学校等や卒業後の進路先との連携を図り、生徒、保護者の活用を促進する。

\*指導に必要な情報を整理共有化し、活用化を図る。

## 2 支援教育力の向上

(1) 思春期における課題への支援、健康教育の充実を図る。

専門家との連携による教職員による事例検討及び生徒、保護者を対象とした教育相談の充実を図る。また、健康保持の基礎ともなる口と歯の健康教育の更なる充実を図る。また、教育課程上への教科としての位置づけについて検討を行う。

(2) 部活動、生徒（生活）指導の充実を図り、生徒の自己肯定感を育成する。

部活動をはじめ、課外活動の充実を図り、生徒の主体性、社会性、忍耐力等を育む。また、生徒の規範意識及び集団生活の基礎となる力を育成するため、自己肯定感の育成を柱に生徒（生活）指導の充実を図る。

(3) センターの機能の役割をしっかりと果たすとともに地域連携の充実に努める。

これまでの事例検討や研究成果を活かし、思春期における性に関する指導、ソーシャルスキルトレーニング（SST）等での分野での支援の充実を図る。また、高等部単独校として、生徒の卒業後の自立をみすえ、関係機関との協働による取組を強化し、その成果を発信する。併せて、地域支援の活動を通じ、とりわけ比較的経験年数の少ない教職員の支援教育力を高める取組を進める。

(4) ICTを活用して支援教育力の充実を図る。

タブレット型PCや電子黒板等を活用した授業ができる教員を増やし、ノウハウを発信する。校務分掌の各種情報の共有化を図るとともに授業や教材等のライブラリ化に取組み、技術・技能の伝達がスムーズに行えるシステムを構築する。

3 生徒が安全で安心して学校生活をおくることができる学校づくりを進める。

(1) 生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、生徒の人権を尊重する学校づくりを進める。

\*学校協議会員との協働による教職員研修の充実等に取り組む。

(2) 防災計画の見直し（改善）を柱に、防災教育の計画的推進や避難訓練の改善を図るとともに、教職員の危機管理意識の向上を図る。また、地震、火災等の災害に備え、保護者との連携のもと、通学時の安全確保及び必要な備蓄品等の整備を行う。

\*PTA活動との連動を柱に進める。

\*地域との連携を進める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<input type="checkbox"/> 対象 生徒・保護者・教職員 <input type="checkbox"/> 提出率について 生徒 (90.0%、4.9%減)、保護者 (64.2%、0.4%増)、教職員 (100%、8.6%増)。教職員は全員提出となった。保護者に関しては項目が多いということや記入しにくい項目があるというご意見を頂いている。次年度は項目の内容や適切な項目数を検討して学校教育自己診断を改訂し、提出率を増加させたい。 <input type="checkbox"/> 満足度（よくあてはまる＋ややあてはまる）について ・生徒・保護者・教職員とも、全体として昨年度より増加した。	<input type="checkbox"/> 第一回学校協議会(平成 27 年 6 月 19 日実施) <学校経営計画について> ・教科「ライフスキル」について期待。ぜひ発信してほしい。 ・インターネットの危険性に対して、予備教育に力をいれる必要がある。 ・学校は福祉避難所に指定されているので、防災についての取組みや考えを外に発信していく必要がある。 ・個別の移行支援計画が効果的なものとなるよう、内容や引き継ぎを期待している。 <教科書選定について> ・障がい者の権利条約を分かりやすく書いた本が育成会から発行されているので参

## 府立泉北高等支援学校

・特に生徒の増加率が高く、学校が楽しいと感じる生徒が増加した。

□各項目について

・よくあてはまるの 1 位は、生徒は「うきうきタイムは楽しい (92.0%)」、保護者は、「学校は、月間予定や各行事の予定等について、適切に保護者に通知している (67.5%)」、教職員は「学校から保護者等にあて、公文書を発行するとき、校長が決裁するシステムが整っている (59.5%)」をはじめ、生徒は授業に関すること、保護者は学校とのつながりに関すること、教職員は校務に関することが上位を占めている。特にほとんどの生徒が授業や学校行事が楽しいと答えており、教職員の生徒指導の成果が伺える。

・保護者において昨年度よりよくあてはまるの増加率の 1 位は「学校は火災、地震のときの適切な避難訓練を実施している (14.2%増)」で PTA と連携した防災対策チームの成果が出ている。

・昨年に続き保護者・生徒ともまったくあてはまらない上位となっている学校のホームページ閲覧については、教職員においては「ホームページの情報提供の手段としての活用はよくなった」と評価されている。ホームページは、常に見ることができる環境があるかどうかにか左右される部分があったり、現在はインターネット上多くの SNS がよく利用されており、ホームページをあまり見ないという利用方法の変化も考えられる。学校情報については、実態に応じた発信の方法を検討する必要がある。

・次年度は、全体的に質問項目を見直し、学校経営計画の評価指標のエビデンスとなるような学校教育自己診断に改善していく必要がある。

考にされたい。

<その他>

・増加する児童デイサービス事業所について、実態を調査するなど情報共有が必要である。

<まとめ>

・安心・安全の取組みは地域や他の支援学校に発信すればよい。

・性に関する取組みで、父親が集まって話をしたのはすばらしい取組みである。

・生徒の声、保護者の声を参考にして人権の取組みに生かしてほしい。

・人権研修について学校協議員も協力する。

・放課後デイサービスについては情報を集め、担任と介助者との情報交換が必要。

□第二回学校協議会(平成 27 年 11 月 6 日実施)

<学校経営計画の進捗>

・スマートフォンなどの使い方について家庭と連携したルール作りが必要。

・中学部・中学校との連携はよく行われている。

・就労の場として最近就労継続支援 A 型の作業所の設置が増えているが、作業内容等を見極める必要がある。

<キャリアプランニングマトリックスについて>

・〇〇ができたという具体的な項目(目標)があれば評価しやすい。漠然としたものは人によって評価が分かれる。

・できるかどうかの表ではなく、いろいろな先生が A 君を見て、こんな力をつけようという育成の観点を確認できるような表になるのがいいのではないか。

・「自立」とはなにか。ADL の獲得から QOL を高めることに移っている。「〇〇ができる」という前に「意欲」をどう高めるかが重要だと思う。したいことができない、したくないことをさせられることで意欲はなくなる。そのあたりを教員が共有することがまず前提である。

<まとめ>

・新しい取組みの中で、シルバーアドバイザーとの交流が印象的であった。よい取組みだと思う。

・生徒の意欲を高めるためにはどうするかが課題。

・学校が一体となって取り組めるようなマトリックスの作成をお願いします。

□第三回学校協議会(平成 28 年 1 月 25 日実施)

<学校経営計画・学校評価>

・人材育成について、支援教育力の専門性チェックリスト (N 支援学校で作成) を活用している。得意分野で研究研修会講師として派遣したり、未達成の部分は研修や書籍を紹介している。

・若い層を育てることが大切。40 歳台はどこも少ない。主任等に若い層を充てる。主任やコーディネータは短いスパンで変えて、多くの人に育ててもらおう。

人権研修：保護者の立場からの研修は時間をかけてじっくり企画した方がよい、今年度中に必ずやる必要はない。

・職場実習開拓については、地道によくされている。今後とも信頼関係を大切に、信頼関係が出来ているので企業から企業へ声を掛けてもらったり、企業団体の集まりでお願いしたらよい。

・職場定着率については、マッチングで半分以上が決まる。幸い在籍中からプレサポートできている。本人、会社の思いをしっかり把握し、どちらにも期待はずれであったという思いをいだかせないようにする必要がある。

・キャラクター「せんぼくん」の活用方法に今後期待している。

・部活動について、南中ソーラン部は良かった、1 つ目標があつてそれに向かって頑張る活動が良い。イベント参加が良かった、目標のあるクラブ指導を今後も続けてほしい。

・新しい教科「ライフスキル」等、大学での実習でもこんなことをしてほしいとあれば、役割を演じたり協力できる。

<学校教育自己診断>

・自分の仕事を見てもらっているか、全体の意思の仕事として動いているかを理解できていると、仕事への満足度は高い。

・退職された方の力もお借りするとよい。

<まとめ>

・自己診断の評価が上がっているところは、先生方が一生懸命された成果。「個別の教育支援計画」は、保護者、教職員とも評価が上がった。

・進路指導の良い結果は先生方が生徒をよく理解されているあかしである。機関の連携がとれていることから成果につながっている。今後も泉北ブランドに磨きをかけてほしい。

・今後も学校と福祉のつながりを強めていく必要がある。

・若い先生が地域に支援に出ることは、地域の向上にも本人の向上にもつながって学び合いになってよい。

・良くやられている成果を見させてもらった。

## 府立泉北高等支援学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
コース制の更なる充実	<p>(1) 生徒の多様性と生徒、保護者のニーズに合致した教育課程の平成29年度からの実施に向けて、検討を実施する。</p> <p>ア 新たな教科科目の開設等も視野に入れ、教育課程の検討を行う。</p> <p>イ 基礎学習・グループ学習の教育内容の充実に向けて取り組む。</p> <p>ウ 研究授業・公開授業の充実を図るため、組織的に取り組む体制を整える。</p> <p>(2) 生徒の自立をみすえ、職場実習機会をはじめとする校外での実習内容の多様化と機会の拡大を図り、生徒のチャレンジ意欲を向上する</p> <p>ア 関係機関との連携による校外実習の多様化及び対象生徒の拡大</p> <p>イ 校内実習の内容充実及び機会を拡大する。</p> <p>ウ インクルーシブ教育を見すえ、高校との連携による協同学習を進める。</p> <p>エ 生徒の希望の進路実現に向けて、進路指導の充実を図る。</p> <p>(3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実を柱に、授業を充実するとともに、必要な情報の共有化を図る。</p> <p>ア 中学校等との連携を強化するとともに、保護者との連携により、卒業後の進路先への円滑な引き継ぎを実現する。</p> <p>イ 必要な情報の整理・共有化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 新たな教科・科目等の開設に向けて、PTを立ち上げ、教育課程検討委員会等と連携して、平成28年度実施にむけて原案を策定する。</p> <p>イ 既存の教科・科目の指導内容の充実を図るため、教材や指導案を蓄積する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 福祉事業所・企業・関係機関との更なる連携を図り、教科「実習」の時間も活用して、職場実習の多様化を実現する。</p> <p>イ 高等学校との連携による協同学習を進める。</p> <p>ウ 進路指導のノウハウや情報をデータベース化し、スムーズに引き継ぎができるシステムを構築する。</p> <p>エ 生徒の自立にむけ、教育活動を通じてその内容や成果を確認できるようなキャリアプランニングマトリックス表を作成する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 保護者が個別の教育支援計画を十分に活用されるよう、しっかりと内容を引き継げるよう体制を整える。</p> <p>イ 指導に必要な情報が、常に整理され、共有化され、活用できるようにシステムを整える。</p> <p>ウ 校務情報のデータベース化・共有化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア PTを立ち上げ、検討を開始する。</p> <p>イ 教材のデータベース化を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 府立大学等の公的施設等における実習の充実を図る(実習場所を前年度より1か所増やし、回数を20%増やす)。</p> <p>新しくできた福祉事業所での実習を積極的に行う。</p> <p>イ 高等学校との連携による共同学習を進める(前年度比20%増)</p> <p>ウ 実習等の充実を通じて、卒業後の進路について、生徒の状況をふまえつつも、在宅となる生徒を0%とし、就労率を可能な限り向上させつつ、前年度卒業生の離職率を0とする。</p> <p>エ 泉北高等支援版キャリアプランニングマトリックス表を作成する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 中学校等との連携を強化し、入学前後の引き継ぎをより確かなものとする。(個別の教育支援計画提出率、前年度比20%増)。</p> <p>イ 個人ファイルの整理と管理のシステムを構築する。</p> <p>ウ 校務情報のデータベース化を行う。</p>	<p>(1)ア 次年度より教科「ライフスキル」を実施(◎)。次年度は実施しながらより良いものにしていく。</p> <p>イ 本校ホームページに掲載した。(○)。次年度も更に充実したものになるよう、継続して取り組む。</p> <p>(2)ア 中百舌鳥キャンパスでの実習を今年度より開始。2日間実施し、回数は20%増(◎)。次年度も継続して実習を実施し、生徒の実態や目標に応じて作業内容の充実を図る。</p> <p>新しくできた福祉事業所での実習3箇所実施し、進路にもつながった(◎)。引き続き様々な事業所での実習が行えるよう工夫していく。</p> <p>イ 成美高校との共同学習(4回)を実施し、前年度比2倍(◎)。引き続き共同学習実施し、更に交流内容を工夫するとともに参加者を増やしていく。</p> <p>ウ 前年度卒業生の離職1人(○)。今後とも関係機関と連携し丁寧なアフターケアを行っていく。</p> <p>エ キャリアプランニングマトリックス表を策定した(○)。より使いやすいものに改訂していく。</p> <p>(3)ア 支援学校との引き継ぎは向上した(個別の教育支援計画提出率、前年度比20%増)(○)。今後は、更に中学校との連携を進めていく。</p> <p>イ 個人ファイルの整理&amp;管理システムを構築した(○)。より使いやすいものにしていく。</p> <p>ウ 掲示板の活用を行った(○)。校務情報を誰もが活用しやすくなるよう今後ともICTを用いて整理をしていく。</p>
支援教育力の充実	<p>(1) 思春期の生徒への支援の充実を図るため、専門家の活用及び健康教育の充実を図る。</p> <p>ア 専門家との連携による事例検討、教育相談を充実し、ノウハウの蓄積を図る。</p> <p>イ 健康教育の教育課程上への位置づけについて検討する。</p> <p>(2) 部活動、生徒(生活)指導等の充実</p> <p>ア 部活動をはじめとする課外活動の内容充実に取り組む。</p> <p>イ 規範意識の育成や社会のルールやマナーを身に付ける取組を充実させる。</p> <p>ウ インターネットトラブルの防止や情報モラルの育成に取り組む</p> <p>(3) センター的役割の発揮及び地域連携の充実を図る。</p> <p>ア 地域支援ブロック推進校として、地域の小・中・高等学校等への支援をより一層充実させる。</p> <p>イ 研究成果を冊子やホームページ等で発信するなど、発信方法の充実を図る。</p> <p>ウ 比較的経験の浅い教職員の支援教育力の向上を図り、ミドルリーダーを育成する。</p> <p>(4) ICTを活用して支援教育力の充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 専門家との連携による事例検討や職員研修を充実する。</p> <p>イ 新たな教科の開設については、PTを立ち上げ検討する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 大会参加や資格取得、発表の場を設けるなどの目標を設けたり、新たな活動を模索するなど、活動内容の充実を図る。</p> <p>イ 部活動や生徒会活動やアドブロードなどの奉仕活動を通じ、社会性の育成に努める。</p> <p>ウ インターネットのトラブル防止や情報モラルの育成について各学年の授業で取り組む。</p> <p>(3)</p> <p>ア 堺市内の小・中・支援学校等との連携を強化する。</p> <p>イ 性に関する指導等の実践的研究を継続、発展し、冊子やホームページ等を活用し、研究成果を広く発信する。</p> <p>授業実践や教材等の成果についてもホームページ等を活用して広く発信する。</p> <p>ウ 比較的経験の少ない教職員の校内研修の機会を充実させる。先輩教員の授業を見たり、話を聞く機会を充実させる。</p> <p>(4)</p> <p>ア タブレット型PCや電子黒板等を活用した授業ができる教員を増やす。</p> <p>イ 校務でのICTの活用の可能性について検討する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 思春期におけるさまざまな課題をふまえ、専門家との連携による職員研修等の機会を拡大する(専門家の活用前年度比10%増)。</p> <p>イ 新たな教科の開設についてPTを立ち上げて検討する。</p> <p>(2)</p> <p>アイ 資格チャレンジする生徒数の拡大、新たな部活動の創設等により、部活動等の活動日の拡大(前年度比10%増)。</p> <p>ウ 全学年の授業でインターネットトラブル防止や情報モラルの育成について取り組む(それぞれの学年で1回以上取り組む)</p> <p>(3)</p> <p>ア 地域支援へ行く人材を増やす(前年度比20%増)。</p> <p>イ これまでの研究を継続し、研修会や本校ホームページ等において、その成果(授業内容、教材等)を発信する。</p> <p>ウ 研究授業、公開授業等に比較的経験年数の少ない(5年未満)教職員の参加を増やす。</p> <p>(4)</p> <p>ア ICTを活用した公開授業を行う。</p> <p>イ ICTの活用について、横断的に検討する機会を設ける。</p>	<p>(1)ア 今年度よりSTの招聘を開始。専門家の活用10%増。梅花女子大学教授とのTTAPについての共同研究を開始(◎)。今後とも専門家との連携をすすめて、専門性の向上に努める。</p> <p>イ 教科「ライフスキル」にむけて、指導内容を整理した(◎)。今後実際の指導を進める中で、指導内容を更に検討していく。(2)アイ 資格チャレンジ生徒数の増加(10%)。新たな部活動として美術部・南中ソーラン部の立ち上げ(◎)。デイサービスの浸透や生徒像の変化に対応した部活動の在り方を探り、更に活性化を進める。</p> <p>ウ 情報モラルの育成について、各学年で取り組んだ(◎)。指導内容や教材の共有化を行い、計画的体系的に行えるよう取り組んでいく。</p> <p>(3)ア リーディングスタッフ1人を新たな人材から任命し、地域支援に9人の教員が参加協力した(前年3倍◎)。今後とも人材育成を兼ねて、より多くの教員が協力できるように工夫する。</p> <p>イ 公開研修会を実施し、教材の発信をホームページで行った(◎)</p> <p>ウ 公開授業を実施し、ビデオ撮りしたものを活用してより多くの教員が授業研究に参加できた。教科で研究授業に取り組んだところもあり、効果が上がった(○)。今後このような取組みを広げていく。</p> <p>(4)ア ICTを活用した卒業前発表(就労支援コース授業)を見る機会を設けた(○)。</p> <p>イ 各分掌、教員にアンケートを取り、可能な工夫を検討中(○)。</p>
安全で安心な学校づくり	<p>(1) 生徒が安心して学校生活を送ることができる学校づくりを進める。</p> <p>ア 教職員が生徒一人ひとりの人権を尊重する態度を養うことができるよう研修機会等の充実を図る。</p> <p>イ 学校協議会との連携により本校の安全で安心な学校づくりを進める体制を整える。</p> <p>(2) 災害時等における生徒の安全確保の取組を強化する</p> <p>ア 年間を通して系統的な防災学習を実施する。</p> <p>イ 災害時に備えた備蓄サイクルを確立する。</p> <p>ウ 地域との連携を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教職員の生徒の人権を尊重する態度を養うため、保護者や関係機関の協力を得て、研修の機会を設ける。</p> <p>イ 学校協議会委員の参画により、人権尊重をテーマとした職員研修を開催する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒の災害、不審者侵入等に対する知識を高め、危機対応力をつけるため、防災学習等を系統的に実施。</p> <p>イ PTA活動との連携により、備蓄サイクルを確立する。</p> <p>ウ 堺市危機管理室との連携を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 保護者の立場から、教職員に期待することについて話を聞く機会を設ける。</p> <p>イ 学校協議会委員が参画する職員研修等を開催する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 各学期に、防災等をテーマとした授業を系統的に実施。</p> <p>イ 防災士と連携し、備蓄品等(水、食料、簡易トイレ等)の防災教育での活用を含めたサイクルを確立する。</p> <p>ウ 防災計画にBCPの観点を追加し、改定する。</p>	<p>(1)ア 今年度は行えなかった(△)</p> <p>イ 人権研修でアドバイスを頂き、子どもの人権を大切にしている意識がより一層高まった(◎)。次年度も協力をお願いする。</p> <p>(2)ア 交通安全については、シミュレーターを用いた自転車講習会や、スケアードストレイトの手法を用いた交通安全教室と事前・事後学習を行った。防災についても毎回の避難訓練時に様々な指導をおこなった。就労支援グループの授業では、救急救命について学習した(○)。今後、系統的におこなえるよう指導事例を共有していく。</p> <p>イ サイクルを確立し購入計画を立てたが、府の備蓄品の分散備蓄の計画が出てきた(○)。府の動向を鑑み、新たなサイクルを確立していく。</p> <p>ウ 防災計画にBCPの観点を追加し、改定した(◎)。</p>